

〔宋書禮志〕舊說後漢有郭虞者，有三女，以三月上辰產二女，上巳產一女，二日之中而三女並亡，俗以爲大忌。至此月此日不敢止家，皆於東流水上爲祈禳，自潔濯，謂之禊祠，分流行觴，遂成曲水。史臣案周禮女巫掌歲時祓除釁浴，如今三月上巳如水上之類也。釁浴，謂以香薰草藥沐浴也。韓詩曰：鄭國之俗，三月上巳之釁浴，兩水之上招魂續魄，秉蘭草拂不祥，此則其來甚久，非起郭虞之遺風。○中略

自魏以後，但用三日，不以巳也。

〔羅山文集隨筆〕桃花佳節，用季春上巳日，蓋古人此日赴東流水畔祓禊，不祥見後漢志，且曲水之事，晉束晳說武帝以周公營洛羽觴隨波，此爲權輿。自魏以後用三月三日不拘巳日，月令廣義謂上巳十幹之己也，非辰巳之巳，蓋二月晦日當於巳午，則三月上旬不有巳日，故知十幹之己而不爲十二支之巳。雖然至今推三日爲巳節者，國俗沿襲因循之習也。

〔日次紀事三月〕三日 節供

俗稱節供，年中五節供之一員也，中華元用上
巳、魏以來，但用三日，不復用巳，本朝亦從之。

〔日本歲時記三月〕三日 今日を重三と云、又上巳ともいふ、上は初といふ意也、いにしへは三月初の巳の日を以て上巳とす、三月は辰の月なれば巳を除日とす、不祥を除く意なり、沈約が宋書に、魏より以後三日を用て、巳の日に拘はらずといへり。

〔雞遊の記上〕三月三日に蕪祭する事は唐土にても、鄭の國には漆洧といふ川の上にて、貴賤男女あつまり、蘭といふ草を取て、災難厄難を祓除する儀式有て、文人は盃を流して詩を作り、酒宴して遊ぶ、これを曲水宴といふ、本朝にては、二十四代顯宗天皇の元年三月、巳日の祓とて、花園へ御幸ましく、始て曲水宴をなし給ふよし、日本紀に見へたり、我朝にても唐土にても、其むかしは、三月上の巳の日に此事ありしが、唐土にては魏の代の時、上の巳の日を止て、三月三日に定めしと、宋書といふ書に記侍りぬ、我國にても、上巳の節とはいへども、今は三月三日にいとなむ事とはなり侍る、